

ぎふ感染症かわら版

令和3年11月19日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



野生動物からうつる感染症に気をつけましょう！

接触する機会は少ないと思われがちですが、タヌキ、イノシシ、コウモリや鳥類など、人間と近い距離で生きている野生動物は案外多く、野犬や野ネズミなども同様に分類されることがあります。また登山やキャンプなどで、野生動物の生活圏に足を踏み入れる機会もよくあります。野生動物はどのような病原体を持っているか不明なことが多く、人にとって重篤な感染症の病原体を持っている可能性があります。**感染症予防のため、むやみに野生動物を触らないようにしましょう。また好奇心旺盛な小さなお子さんは特に気を付けてください。**

野生動物からの感染を防ぐポイント

- ◆ 野生動物の家庭内での飼育や、屋外での接触は避けましょう。
- ◆ もし野生動物に触ったら、必ず手洗いをしましょう。



わが国ではこれらの感染症が主に発生しています。

エキノкокクス症（多包条虫症）



エキノкокクスという寄生虫が原因です。キツネやイヌ、タヌキ等がこの寄生虫を保有していることがあります。人から人へ感染することはなく、寄生虫を保有する動物の糞中に含まれる虫卵を、人が口にすることで感染します。北海道での感染報告が多いですが、近年は本州の野生動物でこの寄生虫の保有が確認されることがあります。

人の症状

感染後、数年から十数年ほど経ってから自覚症状が現れます。初期には上腹部の不快感・膨満感の症状で、さらに進行すると肝機能障害を起こします。重篤化すると腹水がたまり、死に至ることもあります。

感染経路

エキノкокクスの虫卵が手指、食物や水などを介して口から入ることで人に感染します。

予防

野山に出かけた後は手をよく洗いましょう。

野生動物を人家に近づけないよう、生ゴミ等を放置せず、エサを与えないようにしましょう。

沢や川の生水は煮沸してから飲むようにしましょう。

山菜や野菜、果物等もよく洗ってから食べましょう。

感染した野ネズミを食べると犬も感染してしまうため、放し飼いはやめましょう。



オウム病

オウム病クラミジアという細菌が原因です。
インコ、オウム、ハトなどの鳥はこの菌を保有していることがあります。



人の症状

感染してから1~2週間後に、突然の発熱で発症し、咳、頭痛、倦怠感、筋肉痛など、**インフルエンザのような症状**が出ます。重症になると、呼吸困難や意識障害を起こし死亡することもあります。

感染経路

鳥の糞に含まれる菌を吸い込むことで人に感染します。糞が乾燥すると空気中に舞って吸い込みやすくなります。

予防

野生の鳥との接触を避け、むやみに触らないようにしましょう。特に妊婦は注意が必要です。



菌を保有する鳥は、弱った時に大量の菌を排せつするので、弱った鳥をみつけても、近寄らないようにしましょう。

鳥を飼う場合は、信頼できるペットショップで健康な鳥を購入し、ケージの掃除や部屋の換気など、適切な飼育を心がけましょう。

レプトスピラ症

病原性レプトスピラという細菌が原因です。
ネズミをはじめ、多くの野生動物がこの菌を保有していることがあります。また家畜やペットもこの菌を保有していることがあります。



人の症状

感染してから5~14日後に、発熱、悪寒、頭痛、筋痛、腹痛、結膜充血などが生じます。その後黄疸が生じたり、出血傾向が増加することがあります。

感染経路

保菌動物の尿で汚染された水や土壌、あるいは尿との直接的な接触によって感染します。また汚染された水や食物の飲食によっても感染します。

予防

レプトスピラ症の流行地域、あるいはその疑いのある地域では不用意に水に入らないようにしましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。
くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

